



私のカッターでは、こうはならないんですけど…。  
自分には不可能だからこそ、  
より強烈な美的印象が残る“切り絵”。  
今月は、イラストレーターであり切り絵師でもある、  
ごとうかおるさんをご紹介します。

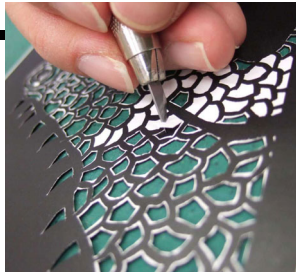


集い木(福岡宝石市場)

# ライオンの鬣を切るのが好き

## 高校生で漫画家デビュー

実は私、幼い頃から漫画家になりたくて高校生の時に一度、漫画家デビューしているんです。ただコマ割りが苦手だったので、4コマ漫画を2年ほど連載してそのままフェイドアウト(笑)。その後は、デザイン事務所や看板屋、着物の染織などを転々とし、2005年から福岡市舞鶴の前原デザイン室に籍を置いています。切り絵を始めたきっかけは2006年、友だちと開催したグループ展です。本職のデザインやイラスト以外で挑戦しようと思い、「切り絵って面白そう!」という単純な動機で…(笑)。初めてのグループ展でペンギンや女性などの3作品を出展し、「次回はこの会場を自分の作品でぜんぶ埋めよう」と決心して、すぐに来年の予約をしました。そこから1年間で作品を創りためたことが、現在の個展やグループ展のスタンスにつながっています。



## 竹筆を使うと、作品が“竹”から生まれる

縦が1メートル以上もある大きな作品だと、下絵に1か月、切るのに1か月、計2か月かかります。切り絵は必ずどこかが繋がっていないといけないので、イラストと違って構図がとても重要なんです。そして、その制限の中でどこまで表現できるかが、一番の魅力でもあります。私、屋久島が大好きで8回ぐらい行きましたが、雨に濡れた森はとて神秘的で、木や葉っぱ、苔など訪れる度に発見があ

ります。最近、水彩などで色を入れると作風と合わなくなってきたので、モノクロの作品ばかり創っています。また道具にも個性があって、「威風堂々」は竹筆で下絵を描いていますが、ライオンが本当に竹から生まれたような仕上がりになるのも面白いですね。ライオンの鬣が風になびいているような流れるフォルムが美しく、切る作業もとても楽しかったです。

## 森の中にいる時間が、一番Happy

「切り絵師＝細やかな人」と思われがちですが、私、切り絵以外はとても雑なんですよ(笑)。趣味も、登山やスキーなどアクティブなものばかり。基本的には、自然と触れることが好きなんでしょうね。今は、森の中にいる時間が一番Happyです。いつかは屋久島の作品を集めた画集を制作したいですね。個展会場でよく、「緻密な作業ですね」と驚かれますが、理想は、切り絵だと気付かれずに一枚の絵として感動していただいて、後から「これ、切り絵だったの?」と驚かれることです。これからも、切り絵を通じて自分探究を続けていきますので、ぜひ個展に足を運んでいただいて、モノクロの世界からあなたの色を自由に創造してみてくださいね!

Profile  
イラストレーター・切り絵師/ごとう かおる

福岡県北九州市生まれ。2006年、切り絵によるグループ展をきっかけに、2~3年に一度のペースで福岡や東京で個展を開催。2011-12年はポストカード展を主宰し、収益を東日本大震災義援金に寄付。2013年にはミラノ・サローネ展、第9回ペラドンアート展に出展。2014年は2年ぶりに福岡での個展を計画中。  
<http://www.kirie-kaoru.com>



静観(せいかん)



息吹



深呼吸



恵みの中で



威風堂々